

(6) 特別支援教育研究会 (通常学級)

会 長 池上みどり (大用小)
副会長 段松 淑子 (西土佐小)
事務局 岡 佐保 (具同小)

1. 研究主題

「特別な支援を必要とする子どもたちがいきいきと学べる授業づくり」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和元年 5月 8日 (水)	四万十市教育研究会組織総会 ・役員選出・研究主題の設定・年間計画	中村南小学校	34名参加
8月20日 (火)	第1回学習会 (夏季研修会) 「特別な支援を必要とする子どもたちが いきいきと学べる授業づくり」 (講師) 高知大学 教職大学院 是永かな子先生	具同小学校 (図書室)	29名参加
10月2日 (水)	第2回学習会 (研究大会) ・提案授業 第3学年算数科 「かけ算の筆算のしかたを考えよう」 (授業者) 東山小学校 奥宮智子先生 ・「特別な支援を必要とする子どもたちが いきいきと学べる授業づくり」 ～ユニバーサルデザインに基づく授業づくり～ (講師) 西部教育事務所 宮上美智子指導主事	東山小学校 (3年2組教室)	34名参加

3. 取り組み内容

【第1回学習会】

今年度は、高知大学教職大学院より是永かな子先生を迎え「特別な支援を必要とする子どもたちがいきいきと学べる授業づくり」と題して講話をいただいた。

内容は、①特別支援教育を包括した授業 ②体験 ③問題行動の考え方 ④これからの教員に求められるものであった。

まず①については、通常学級の児童に諦めさせないための特別支援教育ということで、全員参加の授業のためにどのような問いかけや仕掛けを行うとよいか具体例を挙げながら説明していただいた。

②では、読む、書く、聞く等様々なワークを行い、実際に先生から出された課題に取り組んだ後、指導の工夫や具体的な改善方法を話し合った。具体的な場面を実際に体験したことで、できない気持ちや焦り等、子どもたちが授業の中で置かれる状態を改めて感じる事ができ、大変勉強になった。続いて③では、怒るのではなく、背景にある意思表示に注目して落ち着いて対応すること、④については、多様な子どもと一緒に学ぶインクルーシブ教育を前提に支援を入れつつ、徐々に支援を減らしていき、子どもの力を高めること教えていただいた。「教員が諦めなければ子どもは伸びる。」という言葉がとても印象に残った。質疑応答では、

- ・いろいろな行動が日々重なると、余裕がなくなりつついつい叱ってしまうことが増えてしまう。
- ・漢字が覚えられない、形や視覚的、聴覚的にも弱いLD傾向の児童の支援で悩んでいる。
- ・不登校だった児童が登校しだしたが、算・国等遅れている分の学習をどう支援していけばよいか。

等の質問や悩みが出されたが、その一つ一つについて丁寧にお答えいただき、対応策や有効な支援方法をたくさん学ぶことができた。

【第2回学習会】

研究大会当日は、東山小学校の奥宮智子先生による「かけ算の筆算のしかたを考えよう」の提案授業と西部教育事務所宮上美智子指導主事に「特別な支援を必要とする子どもたちがいきいきと学べる授業づくり」～ユニバーサルデザインに基づく授業づくり～と題しての講話をいただいた。

提案授業は、学習リーダーを活用した、ユニバーサルデザインに基づく5つの視点（環境の工夫、情報伝達の工夫、活動内容の工夫、教材・教具の工夫、評価の工夫）を取り入れた算数科の授業であった。自力解決の前に全体でヒントを出し合う、手順表やヒントカードを複数種類用意する等、どの子にも「わかる」「できる」授業になるようたくさんの手立てが考えられ準備されており、参観者からは、

- ・様々な支援の仕方や配慮の仕方が授業を通して学ぶことができた。
- ・支援が必要な児童への具体的な支援方法がわかった。
- ・特別な支援が必要な児童に対しての具体的な手立てを、実際の授業で見ることができてとても勉強になった。

等の感想があった。

講話では、新学習指導要領に新設された「児童（生徒）の発達と支援」という項目について詳しく説明していただいた。その後、提案授業について、子どもの姿と教師の手立てについて、よかった点をペアで交流しあい、活発な意見交流が行われた。

発達障害のある子どもへの指導・支援については、「自閉症スペクトラム症」「ADHD」「LD」それぞれの特性に合わせた支援の実践事例を紹介していただけたことで、様々な対応を学ぶことができた。

ユニバーサルデザインに基づく授業づくりでは、「目で見て覚える方が得意」「耳で聞いて覚える方が得意」「身体を動かして覚える方が得意」等の特性に着目した学びの保障を考えることが大切であることを押さえ、どの子にも分かる・できる授業にしていくために、5つのポイントを意識して授業を改善していくことを提案していただいた。評価の工夫では、褒められた子どもは、「自分に自信をもつ」「前向きで明るくなる」「コミュニケーション能力が高くなる」「もっとできるようになりたいと積極的になる」「自己肯定ができるようになる」ことから、褒めることの大切さについて全員で確認しあった。

全体を通して、提案授業とからめながら話をしていただけたので、今後の実践に繋がる深い学びとなった。

4. 今年度の成果と課題

- 講演では、具体的な事例を挙げながら、実態に応じた支援をわかりやすく教えていただけたので、とても勉強になった。
- ユニバーサルデザインに基づく授業を見ることができ、様々な支援の仕方や配慮の仕方が授業を通して学ぶことができた。
- 理論と実践の両方を学ぶことができて、とても良い研修となった。
- ◇授業後、授業者に質問などができる時間を確保できればよかった。
- ◇実際に授業を見ることはとても勉強になるので、来年度も授業公開ができるとよい。
- ◇合理的配慮について学ぶ機会があればよいと思う。

